

新規・継続等	新規	分野	主要な道路の整備		事業番号	事業名	道路改築(地方道)					
市町村名	いいだし 飯田市		ふりがな 箇所名	(一)時又中村線 <small>ときまたなかむらせん</small>		きりばやし 桐林	事業年度 <small>(完了年度は見込み)</small>	年度～		年度		
事業概要	計画概要 <small>(延長・幅員・面積・工種など)</small>	道路築造工L=980m W=14.0(28.0)m (うち橋梁 L=70m)					H22年度事業進捗率	0%				
	H23年度以降実施内容	同上					本工事費等ベース	0%				
	H23年度実施内容						用地補償費ベース	0%				
	年度	全体事業費		H21年度まで	H22年度	H23年度	H23年度以降残					
	事業費計(千円)	1,800,000		0	0	0	1,800,000					
財源内訳	国庫支出金	990,000		0	0	0	990,000					
	その他											
	県債											
	一般財源	810,000		0	0	0	810,000					
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価			部		政策評価課		
								ランク	評点	ランク	評点	
	必要性 (25)	計画交通量	10,000台/日以上			1,500台以上～10,000台/日未満		1,500台未満		A	4	
		代替道路	唯一の道路である			代替となる道路がある					0	
		ネットワーク (道路網)	駅やインターチェンジが20km以内にある			駅やインターチェンジが20km以上にある		駅やインターチェンジに通じる路線でない			5	
			通行不能区間、冬期通行規制の解消又は市街地の活性化に資する路線である			山間地域の生活支援、商業・工業地域へのアクセスに寄与する		山間地域の生活支援、商業・工業地域へのアクセス、市街地の活性化に寄与しない			A 4	
		各事業特有の必要性(安全の確保)	観光地に通じる道路			観光地に通じる道路ではない					2	
			5.5m未満又は60m未満又は6%以上(幅員、半径、勾配)			5.5m以上6.5m未満(幅員)		6.5m以上(幅員)			2	
		歩道未整備区間に歩道を設置			歩道はあるが不十分であるものを再整備		歩道整備無し		4			
	小計								21			
	重要性 (15)	関連計画との整合	県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(2個以上)			県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(1個)		該当なし		A	6	
		設計上の環境配慮	環境配慮がされ確実性が高い			環境配慮がされているが確実性が低い		環境配慮をしていない			A 4	
		地域の法的な位置付け	緊急輸送路(1次)に位置付けられている			緊急輸送路(2次)又は、奥産、雪寒、過疎に位置付けられている		特別な位置づけはない			3	
		小計									13	
	効率性 (15)	B/C(費用対効果)	B/C 1.5以上			B/C 1.0～1.5未満		B/C 1.0未満		B	6	
		事業効果の早期発現 (H18以降降残事業年数)	事業年数 5年未満			事業年数 5年～10年未満		事業年数 10年以上			B 3	
		コスト縮減	全体的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。			部分的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。		コスト縮減はしていない			0	
	小計								9			
	緊急性 (25)	安全性の向上	交通事故や落石等の危険箇所の安全を向上させる			交通事故や落石等の危険箇所指定はないが安全を向上させる		交通事故や落石等の危険がない		B	9	
		各事業特有の緊急性(渋滞対策・環境保全)(医療・福祉・教育)	渋滞箇所が緩和する医療・福祉の連携が発揮できる道路(ネック箇所の解消)			渋滞箇所ではないが、朝夕の局部的現象を緩和する医療・福祉の連携が発揮できる道路(円滑化が図れる)		渋滞対策ではない医療・福祉の連携に関係ない道路			B 4	
		小計									18	
	計画 熟度 (20)	地域からの要望	地域住民の内発的な要望が強い			市町村からの要望		特に要望がない		B	6	
		事業情報の共有	関係者以外に広く周知			関係者中心に周知		特に周知していない			3	
		住民参加の状況	住民が計画策定に直接参加			住民や市町村の意見を計画策定に反映		特に住民意見は反映していない			4	
		小計									13	
費用体効果(B/C)		2.89			評価の合計			B	74	B	74	
事業周知環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は、平成8年に三遠南信自動車道天龍峡I.Cと飯田市街地を結ぶアクセス道路として都市計画決定され、飯田市南部地区の基幹道路として位置付けられている。三遠南信自動車道の供用開始に伴う交通量増加や交通容量の不足、住環境悪化の悪化に対応すべく早急に事業を実施する必要がある。										
	地域からの要望経緯	三遠南信自動車道天龍峡I.Cの供用開始による地域活性化が望まれており、当該道路もその一因として寄与するものであることから、毎年、飯田市を通じて強い要望がある。										
	事業説明等の経緯	平成19年より地元住民に対し事業説明を行っている。										
	環境・景観への配慮項目	法面の緑化、植樹帯の設置などにより緑化を図っていく。										
	他事業・プロジェクトとの関連	三遠南信自動車道天龍峡I.Cのアクセス道路 天龍峡エコバレープロジェクトの幹線道路										
	「未来への提言」の実現に向けた取り組み	地域住民の新しい生活拠点をめざし、地元対策委員会と協議を進めながら計画に反映している。										
地域の合意形成	全員賛成		概ね賛成		過半数賛成		動向不明		その他			
部意見	必要性、重要性の評価レベルは高い。今後計画熟度を高め、事業化を検討したい。				政策評価課 意見		必要性、重要性は認められる。					